室町時代の民衆の成長

人々は、どのように結び付いて自分たちの暮らしを守ったか

背景：農業や商工業の発達

- 米と麦の二毛作が広がる
- 牛馬や肥料を使う
- 定期市が月に6回開かれる所も
- 馬借・問（問丸）が物を運ぶ
- 土倉・酒屋がお金を貸す

村：惣（惣村）

有力な農民を中心に、村の人々が
まとまって自治を行う。

寄合

村の人々が集まって話し合い、
村のおきてを決める

共同の管理

用水路や、共同で使う
山林を管理する

年貢

村でまとめて領主に
納めることもあった

一揆：団結して要求する

共通の目的のために団結し、
力を合わせて行動する。

土一揆（1428年 正長の土一揆）

土倉・酒屋をおそい、
借金の帳消し（徳政）を求める

国一揆（1485年 山城の国一揆）

守護大名の軍を追い出し、
8年間自治を行う

一向一揆（1488年 加賀）

守護をたおし、約100年
自治を行う

都市：座と自治

商工業者や町の人々が
結び付いて仕事と町を守る。

座

同じ業種の商工業者の組合。
公家や寺社に税を納め、営業を独占

京都の町衆

自治を行い、応仁の乱で
途絶えた祇園祭を復興

堺・博多

有力な商人たちが
話し合いで町を治める

年は代表的な例。惣・一揆・座の広がり方は、地域や時期によって異なる（畿内を中心に広がった）。